

# 牛久：学校周辺に見る自然

第53号 牛久二小

2013年2月9日発行

## ＜冬の校庭でさがしてみよう！（動物編）～②鳥＞

1/25、牛久二小4年2組との校庭の動物観察。今回は鳥の仲間。今年は、牛久市内に限らずあちこちで冬鳥が多く観察されているようです。二小の校庭にも何種類か来ていますが、この日にはおおよそ探して回っていたためか、声はするけどなかなか姿を現してはくれませんでした。そこで、下見の時の写真なども載せて紹介することにします。

教科書19ページ「わたり鳥」で学習したように、「秋に北のほうからやってきて日本で冬を過ごし、春に北のほうへもどってひなを育てる鳥」を日本では「冬鳥（ふゆどり）」といいます。



雪の2日後1/16、校庭はまだ広く雪におおわれていましたが、「チッ、チッ」と鳴きながら枝から枝へ渡って行く小鳥がいました。**アオジ**です。ふだんはやぶの中などにいて姿を見せませんが、地面でえさを探していたり、写真のように枝にとまる姿を見ることもあります。観察の日には残念ながら声だけでした。**雪の残る中、枝から枝へ渡るアオジ（冬鳥：1/16）。**



同じ日、ビオトープわきの畑で、ツグミが地面をつつきながらえさを探していました。やみくもにつついてはいるわけではないのですが、なかなか見つからないようでした。雪やしもばしらにおおわれた地面は、冷たくないのでしょうか？ 枝にとまって、木の実をついばむ様子もよく観察されます。

**冷たそうな地面をつつきながら、えさを探すツグミ（冬鳥：1/16）。時々立ち止まり写真のように胸をそらす。**



ビオトープの林には、**シメ**が来ていました。スズメより少し大きいくらいの冬鳥で、ずんぐりして見えます。太いくちばしでエノキやムクノキなど木の実を食べます。観察していてもじっととまっていてくれることもあるのですが、この日は皆を呼ぶ前にパッと奥へ飛んで行ってしまいました。ん～ッ、残念！

**小枝にとまるシメ（冬鳥）。太いくちばしで、ムクノキやエノキなどの木の実を食べる。**



玄関前の花だんにおりたジョウビタキのメス(左:冬鳥)と、小枝にとまるオス(1/28牛久二中)。なわばりをもつ。

この日の勤務を終えて、帰ろうと車を動かし始めたとき、玄関前の花だんにジョウビタキのメスがおおりてきました。48号で紹介したように、なわばりをもつ冬鳥です。やはりこの冬は、例年より多く見かけます。右は牛久二中で写したオスで、白っぽい頭、オレンジ色のおなかが目立ちます。



サザンカの花に来たメジロ(1/30宮内家)とヒヨドリ(1/23宮内家)。どちらも留鳥で、サザンカの花粉を運ぶ。

ここから先は、一年中いる「留鳥(りゅうちょう)」です。

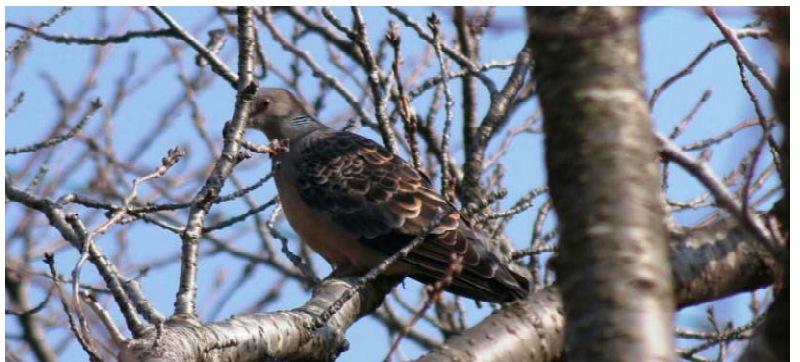
集合前、サザンカの花にはメジロとヒヨドリが来ていました。写真にはとれなかったのので、最近わが家の庭で写したものを載せます。どちらも花粉でくちばしが黄色くなっていますね。鳥たちは蜜をもらいながら、花粉を運んで植物たちの役にも立っているのです。



これも集合前、ビオトープの林ではコゲラが幹をつついていました。残念ながらこれも写真にとれなかったのので、最近牛久二中で写したものを載せます。日本最小のキツツキです。

最後に、キジバト。桜の枝にかくれるようにとまっています。首の青いもようが特ちょうで、「デーデー、ポッポー」と鳴いているのはこれ。

【理科支援員 宮内】



コブシの枝の切り口をつつき、虫をほじくり出すコゲラ(左:留鳥, 1/30牛久二中)。桜の枝の中にかくれる?キジバト(右:留鳥)。